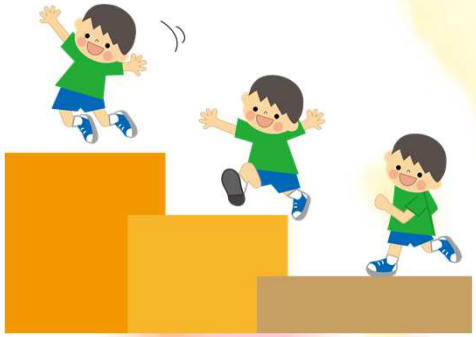
# 令和4年度　あけぼの支援学校

# 今年度の研究のまとめ

研究推進係

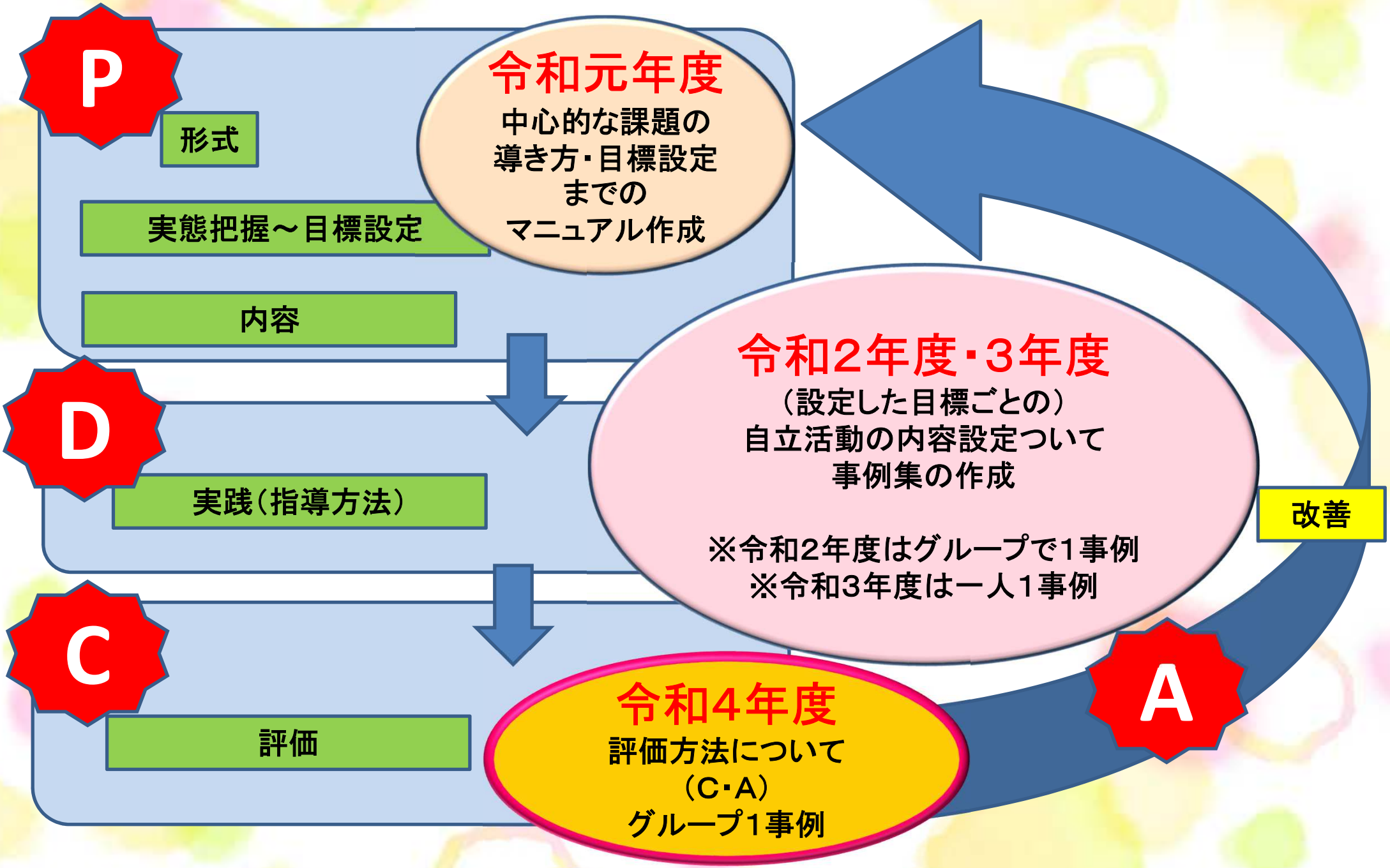
# 今年度の研究テーマ

「個に応じた自立活動の指導
～明確な評価方法の探究～」

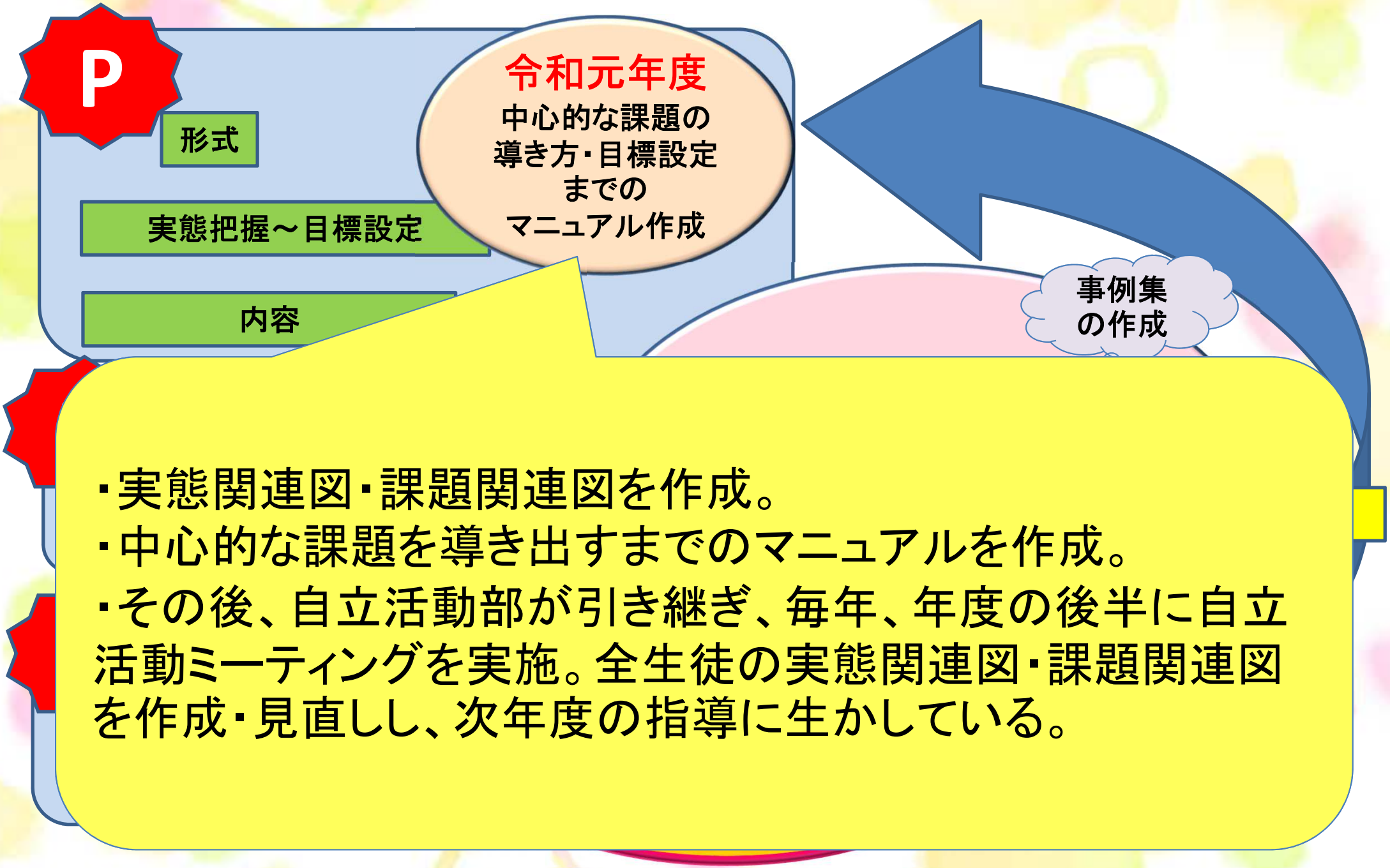


キーワード：自立活動の明確な評価方法
指導目標と評価の一貫性
教員間の共通理解による指導の充実
自立活動と教科

# 本校の自立活動の研究（今年度4年目）

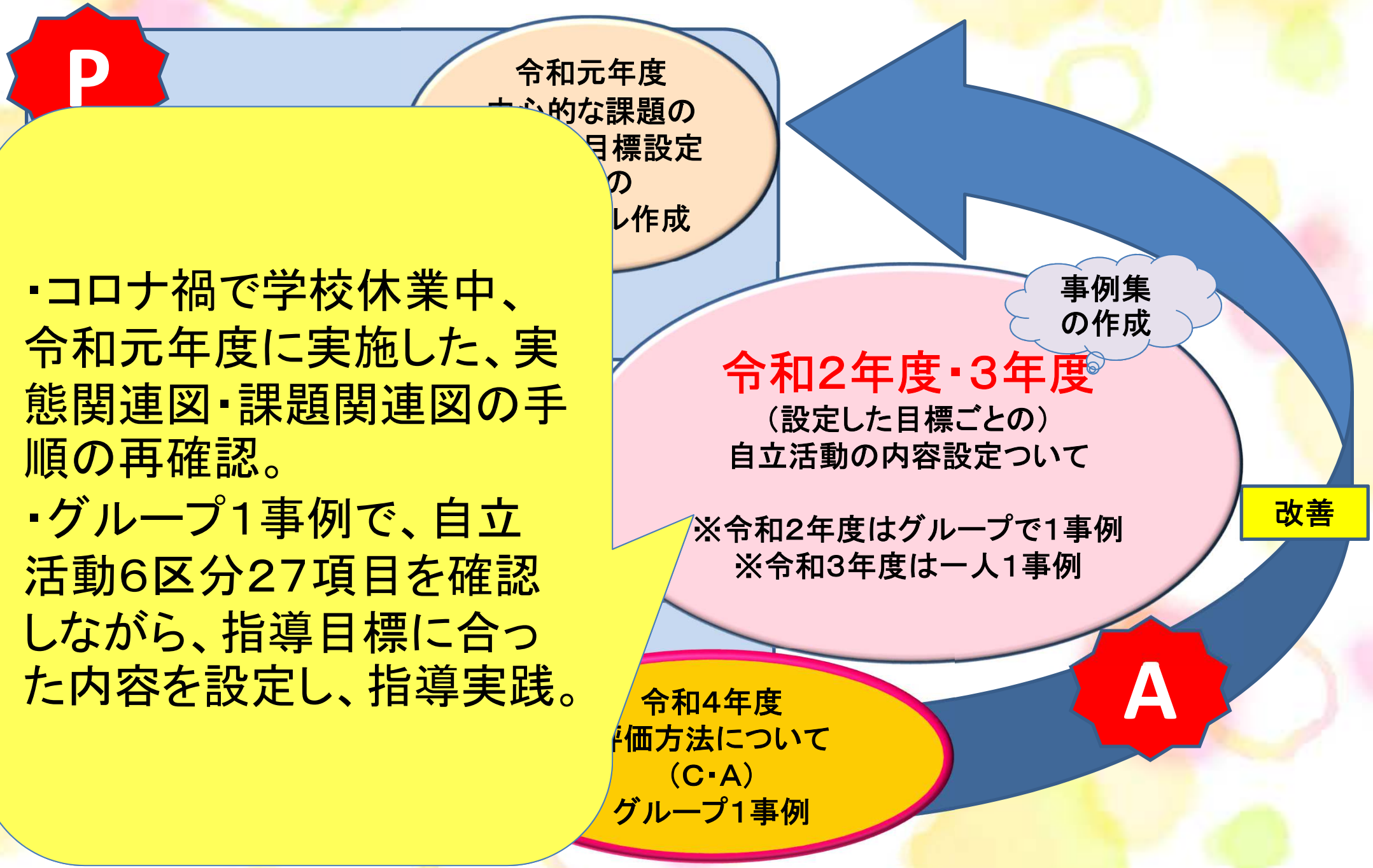


# 自立活動の研究（1年目　令和元年度）




・実態関連図・課題関連図を作成。
・中心的な課題を導き出すまでのマニュアルを作成。
・その後、自立活動部が引き継ぎ、毎年、年度の後半に自立活動ミーティングを実施。全生徒の実態関連図・課題関連図を作成・見直しし、次年度の指導に生かしている。

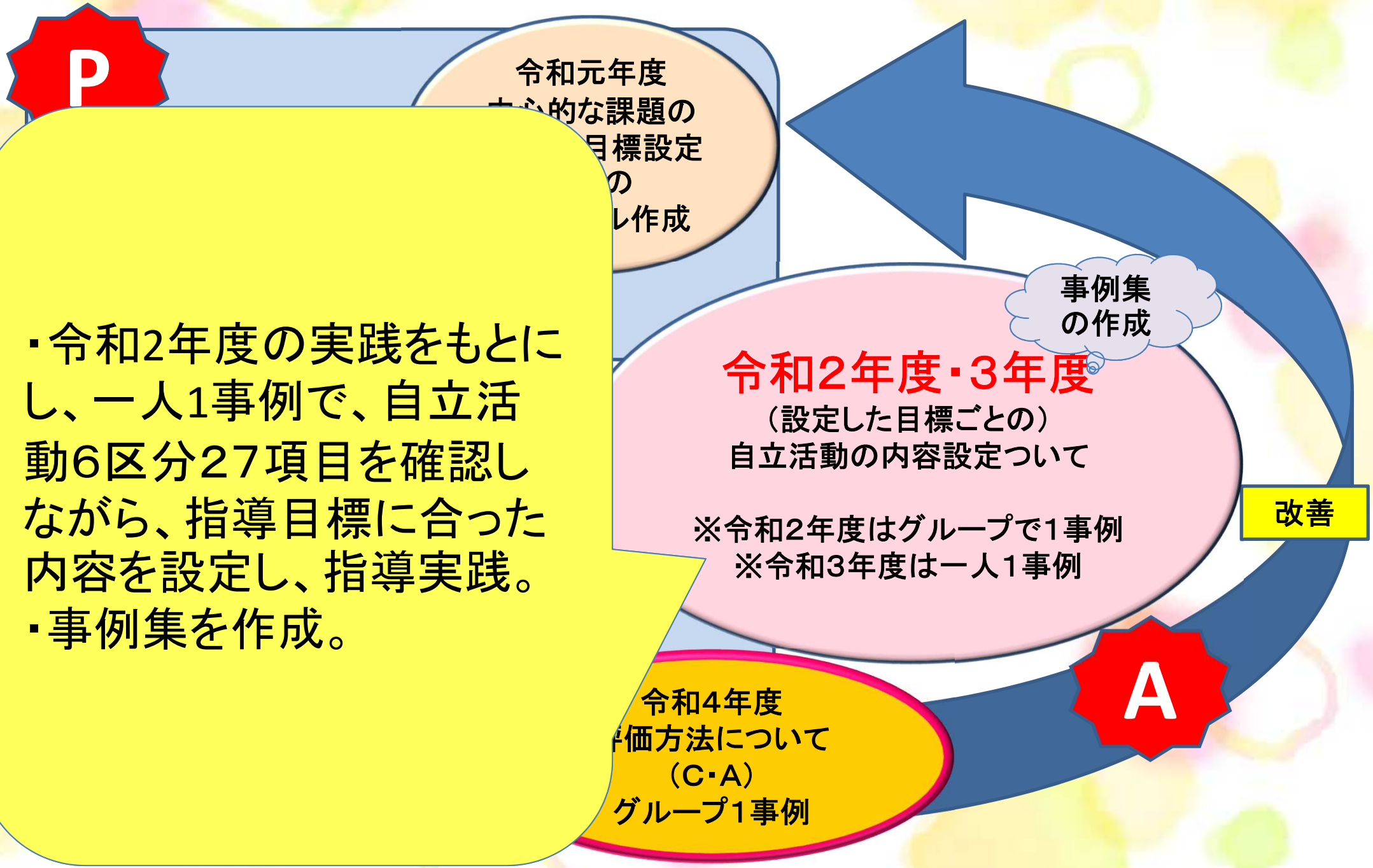
# 自立活動の研究（2年目　令和2年度）




・コロナ禍で学校休業中、令和元年度に実施した、実態関連図・課題関連図の手順の再確認。

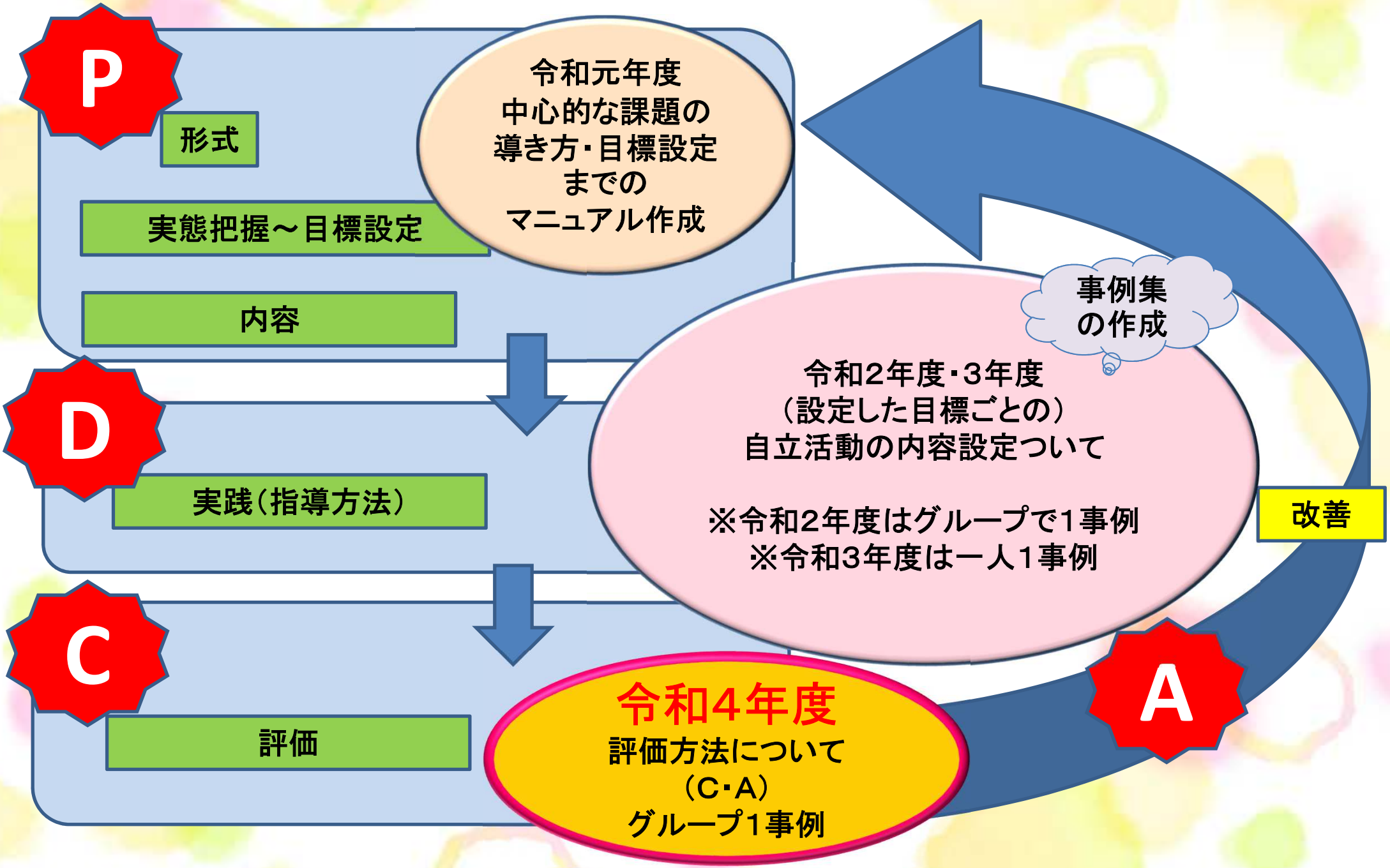
・グループ1事例で、自立活動6区分27項目を確認しながら、指導目標に合った内容を設定し、指導実践。

# 自立活動の研究（3年目　令和3年度）




・令和2年度の実践をもとにし、一人1事例で、自立活動6区分27項目を確認しながら、指導目標に合った内容を設定し、指導実践。
・事例集を作成。

# 本校の自立活動の研究（今年度4年目）



# 研究方法と内容

## 研究グループ

・学部、学習グループに分かれて行う。

・フリーの教員（学部主事、進路指導主事、地域支援主任など）については、授業（できれば自立活動の授業）を受け持っている児童生徒が在籍しているグループに所属し、その担当と共同で事例研究を行う。

# 今年度の研究方法と内容

## 自立活動の評価についての研究

### 評価方法の検討（4～8月）

☆学部研究・グループ研究（学部研メイン）

他校の方法や文献を参考にして、評価の方法について
どのようなものがあるか調べる。

### 中間報告（8月）

調べた評価方法から良いと思われるものをピックアップ
して、各学部ごとリモートで発表・資料をポスター形式で掲示
提案の中からアンケートで評価方法を決定。

### 事例研究（9月～12月）

☆学部研究・グループ研究（グループ研究メイン）

決定した評価方法で事例研究

・実態把握（Sスケール等）

・評価規準、評価基準の検討

・事例実践

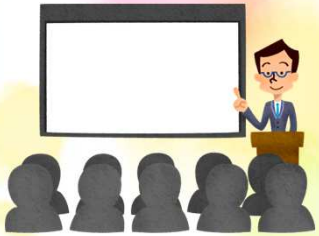
# 校内研究の1年間の流れ

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | **第1回 全体研**<br>R4年度の方向性、テーマ提案 | | | **第2回 全体研**<br>講師招聘研修会<br>徳永豊先生 | | | | | | **第3回 第4回 全体研**<br>研究のまとめ | **第5回 全体研**<br>来年度の提案 |
| | | | | **中間報告**<br>学部ごと、調べた評価方法を発表 | | | **相互 授業参観** | | | | |
| | **学部研 グループ研**<br>他校、他県、文献などを参考にどのような自立活動の評価方法があるのか調べる。 | | | | | **グループ研 学部研**<br>中間報告で出た評価方法から、良いと思われるものを選び（全体で統一するか、グループごと変えるかは未定）、それに工夫、改善を加えながら、事例研究 | | | **学部研 グループ研**<br>研究のまとめ | | |

# 校内研究年間計画

| 日程 | 内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 5/9（月）　第1回全体研究会 | 今年度の研究について | |
| ①5/19 | 学部：進め方の説明<br>さまざまな評価方法について、いくつかのグループに分かれて、思っていること、アイデアなど自由に話し合い、発表する。 | 学部研 |
| ②5/30（小・中）<br>5/25（高） | 他校、他県の自立活動の評価について調べる。（この日までに一人１つは方法を調べたり考えたりしておく。） | 学部研<br>グループ研 |
| ③6/9 | 他校、他県の自立活動の評価について調べたものやアイデアを、グループごと学部で発表 | 学部研 |
| ④7/5 | 中間報告会に向けて<br>学部として、どの評価方法を提案するかを検討・決定 | 学部研 |
| ⑤7/13 | 中間報告会に向けて<br>学部として、どの評価方法を提案するか決定し、発表準備 | 学部研 |
| 8/22（月）AM<br>中間報告会 | 学部ごと本校に適していると思われる評価方法について提案<br>その後アンケートで投票し、取り組む評価方法を決定していく | リモート発表<br>ポスター発表 |
| 8/22（月）PM<br>第２回全体研究会 | 講師招聘研修会　テーマ未定（自立活動の評価についてお話ししていただく）<br>講師：徳永豊先生（福岡大学教授） | リモートでの実施 |
| ⑥8／29 | 評価方法の決定（全校統一にするか、学部ごとに分けるか？）<br>事例対象児の決定（グループ1事例にするか、一人1事例にするか？） | 学部研・グループ研<br>※全体研後にアンケートを取って決める |
| ⑦10/20 | 事例研究 | グループ研 |
| 10月17日（月）～28日（金）<br>授業参観ウィーク | 授業公開を２週間程<br>一人1回は公開 | |
| ⑧11/24 | まとめの方向性についての確認<br>事例研究 | 全体<br>グループ研 |
| ⑨12/15 | 学部内で経過報告<br>事例研究 | 学部研<br>グループ研 |
| ⑩1/13 | 事例のまとめ完成 | グループ研 |
| ⑪1/26 | 学部研究のまとめ | 学部研・グループ研 |
| 2/15（水）　第３回全体研究会 | 今年度のまとめ・事例報告会（小・中学部　学部のまとめ・事例報告） | |
| 2/20（月）　第４回全体研究会 | 今年度のまとめ・事例報告会（研究のまとめ　高等部のまとめ・事例報告） | 指導主事招聘 |
| 3/15（水）　第５回全体研究会 | 来年度の方向性について | |

# 研究会・研修会



| | |
|---|---|
| 第1回全体研究会 | 5月9日（月） |
| 中間報告会 | 8月22日（月）　AM |
| 第2回全体研究会<br>（講師招聘研修会　講師：福岡大学　徳永豊先生） | 8月22日（月）　PM |
| 県外研修報告会 | 1月6日（金） |
| 第3回全体研究会<br>　小学部・中学部事例報告 | 2月15日（水） |
| 第4回全体研究会（指導主事招聘）<br>　高等部事例報告・今年度のまとめ | 2月20日（月） |
| 第5回全体研究会 | 3月15日（水） |

# 評価方法の検討（４～８月）

①各学部のグループごとに文献や他校の情報などをもとに、さまざまな評価方法を調べ、良いものを一つ選んで学部で提案。

↓

②学部研の中で、話し合いを行い学部として中間報告会に提案する評価方法を決定。

↓

③ポスター掲示・中間報告会で学部ごと評価方法を提案。

↓

④アンケートにより、事例研究で行う評価方法を決定。

# 中間報告会・小学部の提案

全校統一の評価基準を使い、現在の到達度を明確にする

診断的評価

「学習到達度チェックリスト」
（Sスケール）　徳永豊先生

- 発達のばらつきや各領域の段階がパッと見て捉えやすい
- チェックリストに加えて必要に応じて記述できる欄があるとよい

＋

個人の目標に対しての絶対評価

形成的評価

総括的評価

ルーブリック評価
（4段階）

課題についての達成レベルを観点と尺度からなるマトリックス表で評価したもの。課題について達成目的を設定し、その達成のレベルを段階的に分けた表で示す。

# 中間報告会・中学部の提案

## ルーブリックによる学習評価

・課題についての達成レベルを観点と尺度からなるマトリックス表で評価したもの。課題について達成目的（できるようになってもらいたいこと）を設定し、その達成のレベルを段階的に分けた表で示す。（福山特別支援学校　自立活動ガイドブックII版より）

・評価規準、評価基準を設定。成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した評価指標。

（桐が丘特別支援学校・自立活動研究会　よく分かる！自立活動ハンドブック３より）

評価規準・・・何を評価するのか
評価基準・・・具体的な姿（どの場面で、何を、どれくらい、どうする）であり、具体的な判断の根拠

・一番大切にしたい目標についてこの方法を実施。
・ベースの評価はルーブリックで5段階で実施。
・備考として記述式の評価。
・実態に応じて、学習過程の評価に重点を置いたり、可能な児童生徒は自己評価や相互評価を取り入れたりすることで、実態の幅が広くても学校全体で取り組めるのではないか。
・実態の幅が広いので、合う場合と難しい場合があるかもしれないが、事例に取り組んでいく中で、さらによいアイデアが出てくるとよい。

| 目標（評価規準） | 評価基準 | |
|---|---|---|
| 座位保持いすに座って頭を上げ、安定した姿勢を保持することができる。 | A | 10分間頭を上げて、安定した姿勢を保つことができる。 |
| | B | 5分間頭を上げて、安定した姿勢を保つことができる。 |
| | C（現状） | 5分間頭を上げ続けることは難しいが、頭を上げたり動かしたりして姿勢を保持しようとすることができる。 |
| | D | 頭を動かすことはできるが、上げられず倒れてしまい安定した姿勢を保持できない。 |
| | E | 頭を動かすことも上げることもできず安定した姿勢を保持できない。 |
| | 所見 | |

A：十分満足できる　B：概ね満足できる　C：現状　D：現状より悪化　E：全く取り組むことができない

# 中間報告会・高等部の提案

TELER
（テラー）

簡潔ではっきりと評価できる

- TELER（treatment治療 evaluation評価 by the Le Roux’s）
- 総括的評価：期間を定め、その期間の最終時点で学習到達度を評価、成績をつける。
- イギリスの数学者A A le Roux ルルー が考案した脳性マヒ者のための個別の治療効果判定法 。
- １つの課題に対して0から5までの6段階の指標を設定して評価。（初期評価時点での状態code0．～到達したい目標code5．）
- TELER評価を正式に行う場合、著作権問題、ライセンスが必要。
- 「TELERの考え方」を参考にした段階評価とする。
- 評価した6段階の指標をグラフ化。

# アンケート投票により
# 研究で取り組む評価方法決定

・中間報告会後、Formsを使ったアンケートを全教職員に実施し、その結果をもとに今後の評価方法を決定することとした。

・評価方法は、グループごとにするか、学部ごとに分けるか、全校で統一するか、などさまざまな意見があったが、全校で同じ評価方法を使用して取り組んでいくこととした。

# アンケート結果（回答　48名）

中学部と
高等部が
同数！

| | |
|---|---|
| 小学部<br>ルーブリック4段階評価＋学習到達度チェックリスト（Sスケール） | １０ |
| 中学部<br>ルーブリック5段階評価＋記述＋可能な場合は自己評価 | １６ |
| 高等部<br>TELERによる6段階評価 | １６ |
| 複数の学部のよいところを合わせたもの | ６ |

# アンケート結果（回答　48名）

ルーブリック　29
（小10　中16　合わせたもの3）

TELER　17
（高16　合わせたもの1）

特定の方法の回答なし　2

| |
|---|
| 10 |
| 16 |
| 16 |
| 6 |

# アンケート結果を受けて・・・・

☆小・中学部の提案したルーブリックによる評価

☆中学部の提案したA～Eの5段階評価＋記述

☆小学部の提案したSスケール（学習到達度チェックリスト）を必要に応じて活用

☆高等部の提案にあったように、評価の動き（A～E）をグラフ化

☆実態によっては、自己評価を取り入れても良い。

☆一番大切にしたい目標一つについて実施

ルーブリックによる評価に加え、各学部の提案から出た良いところをピックアップして、本校に合うと思われる方法を考え、評価方法を統一して事例実践をしていくこととなった。

# 事例研究（９～１２月）
# ～評価規準・評価基準の検討（９月）～

・夏休み明けから学園祭（９月３０日）までは、学園祭特別日課になってしまうため、通常のペースでの指導が難しい。

・９月中は、１０月からの事例実践に向けて、グループ内で事例対象児童生徒の実態の共通確認をしながら、評価規準・評価基準を検討・決定してもらうようにした。

・実態把握の際に、課題関連図のほか、必要に応じてSスケールを活用し、事例対象児童生徒がどのくらいの発達段階であるのか、次に目指す段階はどのようなものであるかを確認するようにした。

# 事例研究の評価の様式

ルーブリックを用いた自立活動の評価様式

対象児生名（　　学部　　年　　）

| 目標（評価規準） |
|---|
| |

【評価基準】

| | |
|---|---|
| A | |
| B | |
| C（現状） | |
| D | |
| E | |

のりじゅん・もとじゅんひょう
**規準・基準表**

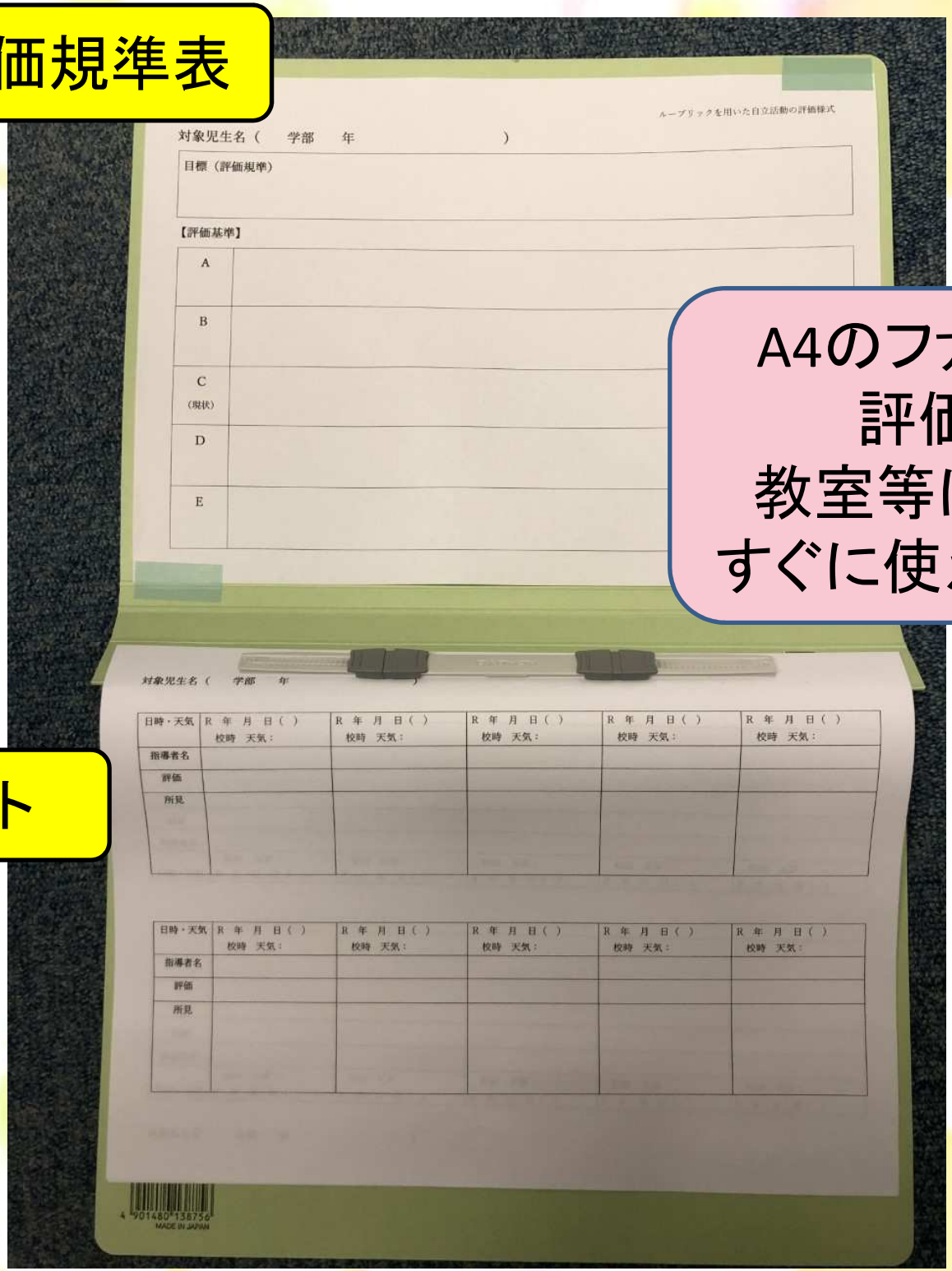
**評価シート**

対象児生名（　　学部　　年　　）

| 日時・天気 | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： |
|---|---|---|---|---|---|
| 指導者名 | | | | | |
| 評価 | | | | | |
| 所見<br>（必要な場合は記入） | | | | | |

| 日時・天気<br>指導者名 | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： |
|---|---|---|---|---|---|
| 評価 | | | | | |
| 所見<br>（必要な場合は記入） | | | | | |

# 評価規準・評価規準表




A4のファイルに綴って
評価していく。
教室等に置いておき、
すぐに使えるようにする。

# 評価シート

のりじゅん・もとじゅんひょう

# 規準・基準表

設定した評価規準と評価基準を記入
評価基準A～Dのうち、Cを現状とする

ルーブリックを用いた自立活動の評価様式

対象児生名（　　学部　　年　　）

| 目標（評価規準） |
|---|
| |

【評価基準】

| | |
|---|---|
| A | |
| B | |
| C<br>（現状） | |
| D | |
| E | |

はじめにこの部分を作成
（9月中に作成）

# 評価シート

指導をしたらその都度記入。
短時間でできる！

対象児生名（　　学部　　年　　）

| 日時・天気 | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： |
|---|---|---|---|---|---|
| 指導者名 | | | | | |
| 評価 | | | | | |
| 所見<br>（必要な場合は記入） | | | | | |

| 日時・天気 | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： | R　年　月　日（　）<br>校時　天気： |
|---|---|---|---|---|---|
| 指導者名 | | | | | |
| 評価 | | | | | |
| 所見 | | | | | |

対象児、指導内容によって、
1日に複数回記入する場合もあるし、
週に2～3回という場合もある。

実態によって、必要があれば多少
項目を変更することも可とした。

# 事例研究（９月～１２月）
# ～事例実践（１０～１２月）～

・９月に設定した評価規準・評価基準をもとにしながら事例実践を開始。

・指導毎に評価シートを記入し、事例児童生徒にかかわる複数の教員で、話し合い、評価の視点をすり合わせながら取り組むようにした。

・経過を見て、評価シートの項目を追加したり、シートの様式をアレンジしたりするグループも見られた。

・教育課程によっては、教員の評価だけでなく、児童生徒自身の自己評価も取り入れるケースもあった。

# グループの
# 事例研究様式

グループ研究のまとめ

○○グループ

1　事例対象児生の実態と目標設定

事例対象児生：　学部　年　○○←イニシャルで

課題関連図

中心的な課題

サンプル

サンプル

実態についての説明

2　評価基準、評価規準の検討

①　基準・規準表

目標（評価規準）

【評価基準】

| | |
|---|---|
| A. | |
| B. | |
| C.（規状） | |
| D. | |
| E. | |

②　検討の説明

3　指導・評価の実際

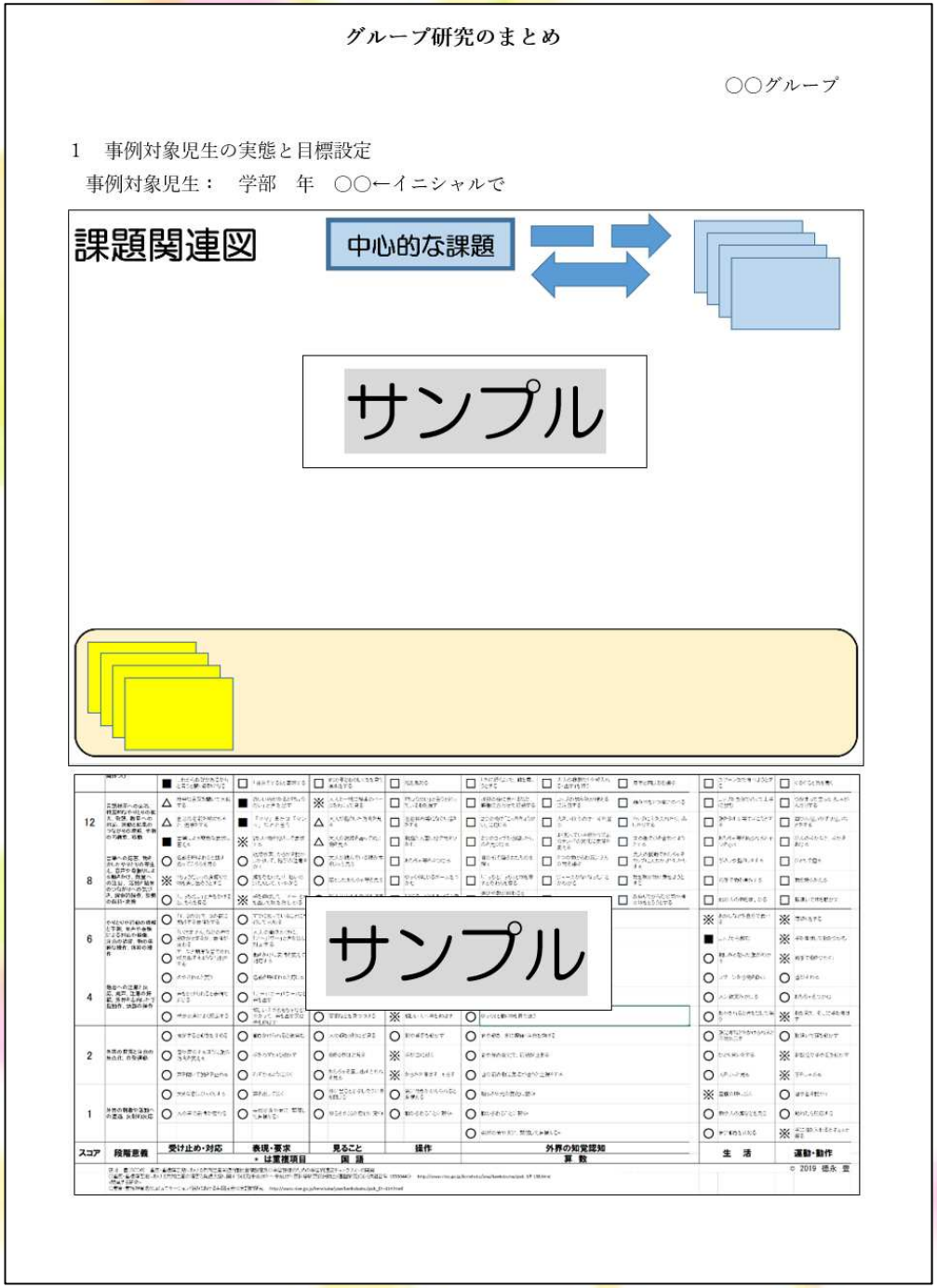
①　評価の推移



②　指導経過と指導方法の改善・検討

4　まとめと今後の課題

# 事例研究




・実態の説明として、本校で取り組んでいる課題関連図を使用。（R１年度の研究より）

・Sスケールで発達段階を確認（該当する児童生徒）

# 事例研究

実態についての説明

2　評価基準、評価規準の検討

①　基準・規準表

| 目標（評価規準） |
|---|
| |

【評価基準】

| | |
|---|---|
| A | |
| B | |
| C（現状） | |
| D | |
| E | |

②　検討の説明

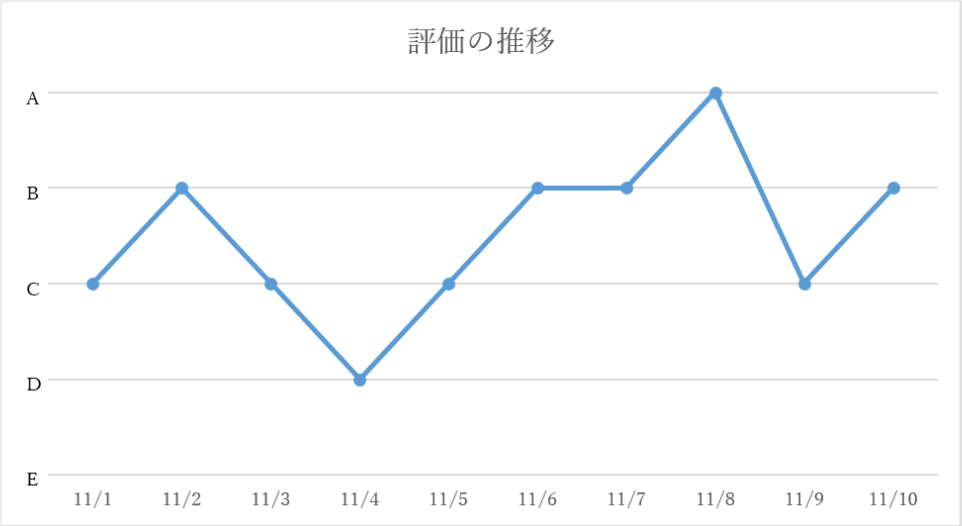
・実態の説明は、個別の指導計画のものをもとに作成。

・設定した評価規準、評価基準を載せ、検討の経緯を説明。

# 事例研究

3　指導・評価の実際

①　評価の推移




②　指導経過と指導方法の改善・検討

4　まとめと今後の課題

・推移がわかりやすいように評価をグラフ化して検証。

・指導の経過、指導方法の改善・検討を記載。

・複数の視点でルーブリックによる評価を行ってどうだったかを検証。

# 今年度の研究のまとめと
# 今後の課題

# 研究のまとめと今後の課題
## ～ルーブリックによる評価を複数の視点で実施したことについて～

## 良かった点

・評価項目を立てることで、客観的な視点・基準で、今、児童生徒がどの段階なのかを判断することができた。

・5段階だったので、具体的でわかりやすかった。

・障害が重い児童生徒は特に、5段階の基準にしたことで細かい変化を評価することができた。（3段階では評価が曖昧になってしまい難しかった）

・かかわる教員で目標を明確にでき、指導の際に意識しやすかった。

・はじめは教師ごとに評価の判断にずれが生じたが、話し合い、すり合わせをすることで、同じ視点でかかわれるようになっていった。

# 研究のまとめと今後の課題
## ～ルーブリックによる評価を複数の視点で実施したことについて～

課題

・良い方法ではあるが、今回の方法を実際の目標すべてで実施することは、時間がかかりすぎてしまい困難。

・人によって判断基準が違う。

・評価項目に客観性を持たせることが難しい。

・かかわる人、状況など、環境によって児童生徒の反応がかわってしまう場合は、判断がすり合わせられず、難しい。

・実態によっては、5段階では細かすぎて評価しにくい。

・教科の教育課程では、評価場面の時間がとりにくかった。

・授業の評価としては良いが、児童の評価にするにはそのままの使用は難しい。

# ルーブリックによる評価を実施してみて

- 客観性のある評価
- スモールステップの評価項目
- 複数の視点
- 視点のすり合わせ
- 指導について考えるツール

## 課題

- 評価基準の設定の難しさ
- 人によって判断基準が違う
- すべての目標に対しては難しい
- 今後どのように生かしていくか

# 課題　課題をどのように考えていくか

評価基準の設定の難しさ

人によって判断基準が違う

客観性のある評価

複数の視点

視点のすり合わせ

・評価をしていくためには、やはり客観的な基準が必要。
・担任任せではなく、かかわる教員複数で考えていくことで、客観性が高まる。
・人によって判断基準にずれがあるのは仕方がないこと。
・それをいかに、複数で話し合いながら近い判断にすり合わせていけるかが大切。

# 課題　課題をどのように考えていくか

すべての目標に対しては難しい

今後どのように生かしていくか

・ルーブリックのような客観的な評価を行っていくことは理想的ではあるが、実際にすべての児童生徒のすべての目標に対して今回の方法を実施することは、膨大な作業量になってしまい困難。

・しかし、複数の教員で、客観的な視点を持って評価をする意識を持つことは大切。考え方として、どこまでできたら良しとするのかを、段階をイメージして目標設定し、評価していくことが必要。

・来年度以降も担当やクラスの児童生徒について、評価規準・基準をぜひ考えていただき、評価のイメージを持って目標設定、指導、評価に取り組んでいっていただきたい。

※今年度の取り組みの紹介は、自立活動部にお願いしてあります。

複数の視点

スモールステップの評価項目

指導について考えるツール

# 自立活動に関する
# 研究のまとめと今後の課題

・自立活動の研究は、今年度で4年目となり、PDCAのすべてを研究した形となった。

・さまざまな方法を調べたり、学習指導要領を確認したりしながら、時間をかけて取り組む中で、自立活動の指導について理解を深めることができた。

・取り組む中で、良い点、課題点が見えてくることで、本校にあった実態把握、課題の導き方、内容の設定、評価などを、教員全体で考えることができた。

・実際に今後に生かすには難しいものもあったが、取り組んでみることで、根拠をもとに、客観的な視点で自立活動の指導を組み立て、実践、評価していく、という確認ができた。

・自立活動とは何かをより深く考えるきっかけとなり、今後、本校が教育課程の見直しをしていく中での指標となるのではないか。